



F A X 0852-61-5788

松江城国宝指定

五周年記念式について

松江堀尾会副会長

佐々木 武男

令和二年七月八日 松江城天守閣前の広場で式典が挙行された。広く市民の参加を得ておこなうべきであったが「新型コロナウイルス禍」の拡大のため、限られた範囲での開催となった。雑賀地区からは、比良幸男氏・若槻大浩氏と私の三名であったが感慨深いものがあつた。

「雑賀まちづくり推進協議会」平成十八年十一月十九日、松江開府四百年祭の記念事業の開幕直前に産声を上げ、「地域的視点と広域的視点」を活動の基軸として積極的に活動を行った。平成二十年二月一日、吉野蕃人氏と玉造温泉に皆美建夫氏を訪ね「堀尾公顕彰」についてお力添えをいただくようお願いした。

皆美氏の意向を踏まえて、後日、松江市内で松江市観光協会会長鶴鶴修一氏

との会合を持ち「堀尾公顕彰の会」立ち上げの方向が定まった。数次の準備会合を持ち、平成二十一年六月二十六日、松江商工会議所において「松江堀尾会」結成総会に於いて、鶴鶴氏を会長に選出し、活動が始まった。この会には、大口町より大型バス一台で「堀尾史蹟顕彰会」の皆様が駆けつけていただいた。

堀尾吉晴公の銅像建立の方向性が定まった段階で、鶴鶴修一会長は秘かに「松江城の国宝化」をやるうと明かされた。そうこうしている中で、広島大学に「城郭研究の権威者」がおられるとの情報が寄せられた。急遽、平成二十二年二月六日、鶴鶴修一会長・安部登理事・宮崎事務局長が広島大学に赴

き、三浦正幸教授に面談した。三浦教授は「松江城は安土城の系譜を引継ぐ現存する日本唯一の正天守であり、その価値は姫路城に次ぐ第二位といっても過言ではない」とのお話であった。鶴鶴会長は帰松後ただちに松浦市長を訪ね「松江城の国宝化運動」を行うべきとの進言をされた。

このことは、是非市民に伝えるべきことと考え、三浦正幸教授を招き、平成二十二年八月二十二日「松江城を国宝にしよう市民の集い」開催。くにびきメッセの会場は五百五十人の参加者で超満員になった。

平成二十二年九月十九日「松江城を国宝にする市民の会」設立、以降「署名活動」等、市民一丸となって取り組むこと等、今日のよろこびを迎えることが出来た。

松江城国宝化は、開府四百年記念事業に当初組み込まれていなかった。松浦市長及び松江市議会の英断で平成二十二年二月十五日「松江城国宝化推進室」の設置、四月「松江城調査研究委員会」が発足、新しい取り組みが始まった。

平成二十四年五月二十一日、過去の文献に記載されていて行方不明になっ

ていた「祈祷札」が松江市職員の調査で発見された。この発見が国宝化に向けて大きく前進した。平成二十七年五月十五日、文化審議会「国宝指定に答申」、七月八日文部科学省「松江城天守」国宝指定告示。八月二十九日、「松江城天守国宝指定記念式典」が行われよろこびを共にした。

私自身、この活動に様々な立場で参画させていただいた。それは「雑賀まちづくりの活動」が高く評価されているからである。まちづくり運動に共に汗していただいた方々、ともに汗していただいている方々に感謝し喜びを共にしたいと思えます。



挨拶する松浦正敬松江市長



国宝松江城を前に喜ぶ式典参加者

故福岡修之氏を悼む

令和二年七月二十八日 福岡修之氏がご逝去されました。謹んで哀悼の誠をささげご冥福をお祈りいたします。

松江先人記念館・雑賀教育資料館

運営委員会会長 佐々木武男

氏は、平成七年四月、雑賀小学校長に就任、平成十一年四月雑賀公民館長に就任、平成二十五年三月公民館長退職。その間、公職にあること十七年に及び、更に、記念館・資料館の主幹専門員として八年間、余人をもって代えがたき人であり、ただただ感謝あるのみであります。

恐らく雑賀小学校長に着任前までは、雑賀地区のことについて、さほど詳しくはなかったと想像されます。しかし、氏がそれまでに培われてきた研究の知識・技量は、静かに燃えだし、特に、大正十二年、開校五〇周年記念事業として創設され、幾多の変遷を経て、多くの先輩の努力によって当時、空き教室に設置されていた「雑賀教育資料館」の資料の整理・研究に努められ、所蔵目録を作成された。これが今日の教育資料館・松江先人記念館の土台となっている。

公民館長に就任されてからは、それまでの蓄積された豊富な知識見識を実践の場に移す活動を展開された。これを受けて「雑賀まちづくり運動」は展開されることになる。

「市民憲章運動」の一環として床几山公園の整備に、吉野蕃人氏、加田守夫氏、門脇栄一氏、笹岡実氏、種村氏夫妻、地元の人々等多くの協力を得て実践し、ついに「床几山公園愛護団」の認定を得ることが出来た。一時、活動が衰え寂しい思いをしていたが、吉岡利夫氏を中心に活発に活動が展開されていることは嬉しいことである。

公民館前の「私塾博審学舎之碑」の石材を求めて、福岡、吉野、加田、石材店社長とともに八雲町の山野を探し求めたこと、遠く斐川町まで足を延ばしたこと等思い出される。

松江先人記念館・雑賀教育資料館の整理展示は、福岡修之氏の力なくては存在しない。そして、「培塾」跡地の現況を気にかけてながら逝ってしまわれた**偉人と共にまちづくりを!!**

チーム培塾代表 平野 武志

福岡修之元館長からの最大の贈り物は、チーム培塾という名前です。元々おやじの会として楽しく活動していま

したが、館長から志を立てたらきちつとした名前で活動しなさいとのこと、チーム培塾にしたいかと相談に行くと館長席で両手で大きな丸をつくり大きな声でOK、満面の笑み、今も忘れません。培塾は雑賀横浜にあった、後に雑賀小学校の初代校長を務める澤野修輔が興した私塾で、若槻礼次郎、岸清一、西田千太郎、梅謙次郎など、国、地方の指導者を世に送り出した。そのたくさんの方から志を学びながらまちづくりに参加できたらの思いからでした。

この度、総理大臣に菅義偉さんが指名されたが、出身大学の法政大学初代総長は、培塾出身梅謙次郎さんとのこと。天国からみんなで頑張れと応援されているようです。頑張りましょう。

福岡先生との出会い

原 洋二

福岡先生にお会いするようになったのは、私が県立学校を退職し、平成十四年四月より市の生涯学習課に勤務している頃からでした。

先生は当時、雑賀公民館長として生涯学習課にお出かけになることも多く、雑賀町内の歴史等についても調査・研究をなさっていました。私が渡部寛一

郎の曾孫であることが分かり、お会いすることも多くなりました。

私の家が普通学舎であったことから、有志の方による顕彰碑の建立、普通学舎で使用された書籍等の保存管理のために、専用の書棚を整備していただきました。毎週木曜日に教育資料室に出かけると、収集された資料を黙々と整理していらつしやいました。

体調がよくないとお聞きしていましたが、雑賀公民館から訃報のお知らせがあり、驚くと共にもっといろいろと教わりたかったと、残念に思いました。今でも、「ああ原先生。」と教育資料室へ顔を出されるような気がします。

福岡館長さんを偲んで

山田 松枝

去る七月二十八日にお亡くなりになった福岡様への追悼集作成の原稿依頼を受け、哀悼と感謝の思いで書かせていただきます。私は、平成十一年四月から七年間公民館職員として一緒に仕事をさせていただきました。本当に穏やかで、優しく物静かな方でした。

私が一番に思い出すのは、月一回各戸に配布している「公民館だより」の紙面作りに関わった時のことです。その頃の紙面は「お知らせ」が中心で興

味をもつて読んでもらえる内容ではありませんでした。そこで、当時の運協

総務部長を中心に館長、職員が一緒に取り組み、コラム記事『話のくずかご』町内の紹介や歴史を記した『わがまちは今』などを次々に掲載したことで地域の皆さんにより親しんでいただける紙面が完成しました。

以後、自分たちの住む地域を学習しようとして「雑賀学び塾」講座が始まり多くの皆さんがご参加されました。

公民館長在職中は勿論のこと、退職後も雑賀のまちづくりに多大なるご尽力をされた福岡館長さん、本当にお世話になりました。

心よりご冥福をお祈りいたします。

福岡修之さんを偲んで

片山 智子

「片山さん、雑賀のキャラクターが町のあちこちに出没したら面白いだろうね。」

当時館長だった福岡さんのこんな楽しいつぶやきから、キャラクター作りが始まりました。何度も描き直して誕生したのが「あしがる君」です。そしてその一枚のイラストが着ぐるみとなり雑賀町に出没して子ども達をわかせるのです。その様子を愉快に笑って

みている福岡さんの姿を今も思い出します。

思えば、公民館の事務室は、いつも地域の方のにぎやかな会話と笑い声に包まれていました。その中心には常に福岡さんの笑顔があったのです。そんな公民館に集う人たちのムードが歴史的資源を活かした町づくりを大きく動かす原動力となったように思います。

折りしも松江市の開府400年祭開催中のころ。そのイベントに合わせ雑賀の歴史をアピールするアイデアや、事業の展開は、見事に地域を巻き込みわくわくするものとなりました。福岡さんから学ばせていただいたことは、私の公民館職員としての基礎となっています。

今頃、福岡さんは天国で雑賀の偉人さんたちと何を語っていらっしやるのでしょうか。福岡さんの穏やかな笑顔にお会いできないのは寂しい限りです。どうぞいつまでも雑賀の町を見守っていて下さい。

福岡館長さんへ

山野 典子

退職されてからも私はお会いするついでに「福岡館長さん」と言っていましたね。だからあえてそう呼ばせ

てください。

出会いは平成二十二年、私が雑賀公民館へ着任し、館長として働いておられた頃でした。私は公民館という初めての職場でとても不安でしたが、福岡館長さんはいつも見守りつつ、悩んだ時は優しく指導してください、公民館職員としての心得を言動で示してくださいました。

事務室にはよく住民の皆さんが福岡館長さんとお話しがたくて立ち寄ったり、気軽に声をかけてもらえ、その度にお茶を入れておもてなししていたように思います。おかげで私は住民の皆さんと仲良くなれるきっかけをいただけたと思います。そんな多くの方に慕われ聞き上手な福岡館長さんが、公民館を拠点に人と人とを繋ぎ、多様なアイデアで地域力を引き出しているから、雑賀のまちづくりが活発に取り組んでいるのだと感じていました。

私は福岡館長さんの人との接し方や地域との関わり方をとても尊敬し、目標にしています。一緒に雑賀公民館で働かせていただいた日々は、かけがえない宝物です。

本当にありがとうございました。

福岡館長を偲ぶ

板花 智明

逢えなくなつて
どれくらいたつたのでしょうか
出した手紙も
今朝ポストに舞い戻った
窓辺に揺れる
目を覚ました若葉のよに
長い冬を超え 今ごろ気づくなんて
どんなに言葉にしても足りないくらい
あなた愛してくれた
すべて包んでくれた
まるで ひだまりでした

(Le Couple ひだまりの詩)

福岡館長は、この歌のように優しく、温かく、いつもわれわれ職員を見守っていてくれるそんな人でした。

業務の合間に雑賀の偉人たちについて調べる姿。学校帰りの小学生に「あしがる君」のシールを窓口で渡す姿：様々なことが思い出され、悲しくなったり寂しくなったりもしますが、皆さんの輝く宝をいただきました。

そして、たくさん支えていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

岸清一先生と

岸記念体育会館の変遷

若槻 喜保

昨年、令和元年五年十六日、神宮外苑地区の東京都新宿区霞ヶ丘に建設された『ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア』の竣工式が行われました。

昭和十六年三月に神田・お茶ノ水に完成した岸記念体育会館から三代目の日本スポーツ界の総本山で、日本スポーツ協会と日本オリンピック委員会が新設した新本部ビルです。



ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア全景と正面玄関の岸先生胸像

新国立陸上競技場に隣接し地上十四階地下一階。最上階十四階の大会議室名は当協会第二代会長岸清一先生の名を冠して「岸清一メモリアルルーム」とされています。

岸先生の功績年表を掲出したギヤラリーも十四階ホワイエに設置されています。また正面玄関には代々木の旧会館から移設された岸先生の胸像が来館者を迎えています。(写真提供日本スポーツ協会)

新会館一、二階は「日本オリンピックミュージアム」でオリンピックの歴史、メダル、トーチ、ポスター、競技を疑似体験できるコーナーなどが楽しめます。

三階は会議室、四階から十三階までは六十一の各種スポーツ団体本部が入る事務所です。会館名称の「スクエア」は英語で「広場」を意味しています。ピエール・ド・クーベルタン、嘉納治五郎像、一回目の東京オリンピックの聖火台をはじめ過去の日本で行われた大会の聖火台(縮尺 2/3)等が点在する本ビルを囲むランドスケープであり、最適なオリンピック広場です。

話は横道にそれますが、昨年十一月に岸先生の尊孫岸健二氏が二泊三日で来松され、岸先生の生誕地のある雑賀・地行場を訪れました。集まった町民へ「新会館名から「岸」の文字は消えたが、「岸清一メモリアルホール」などゆかり

の場ができたことは、地元雑賀の熱意こもる請願があったこそ」と謝意を述べられました。

新館の移転新築の情報が入って以来、地元・雑賀からの「岸」の名を残して欲しい」という強い、幾度もの訴えが協会本部を動かした証と思います。

紙面が僅かになったが、代々木に初代の岸記念体育会館が建設(昭和十六年三月)された処から記していきます。



昭和16年建設の岸記念体育会館

岸第二代大日本体育協会長の献身的な努力によって協会の財政基盤、組織が安定した昭和の初め、米国ロサンゼルスオリンピック大会で大勝利を納め、運動会館建設の機運が高まりました。

だが昭和八年十月に岸先生が急逝され協会は牽引者を失い、会館建設は頓挫してしまいました。

しかし、道は開けました。昭和九年先生の嗣子偉一氏から先生の生前の意思を十二分に汲み、運動会館の建築資金とし



昭和39年建設の岸記念体育会館

て八十万円(同年の松江市歳入額約五十五万円の寄附の申し出があり、当時「偉一の美学」と称賛されました。

昭和十六年に東京お茶の水に岸先生を永遠に記念する為、「岸記念体育会館」と名づけ、完成させました。鉄筋風の木造瓦葺二階建て二棟でした。設計者は、丹下健三氏です。

太平洋戦争下、焼夷弾による戦火にも会いましたが職員の懸命な消火活動により無事終戦を迎えました。

以後昭和三十九年まで「キシタイ」の愛称で親しまれ、二代目の「岸記念体育会館」にバトンタッチしました。

由緒あるお茶の水の「岸記念体育会館」とその土地を二十五億円で売却し、昭和三十九年の東京オリンピックの中心となる渋谷区代々木に土地を求め、新「岸記念体育会館」を建設しました。地上五階地下三階の「白亜の殿堂」でした。

施設名が変わろうとも、恩寵といえる会館を末永く大切にしたい。